

私は4月に入学し、そこからなんとなくギター部に入部し、なんとなく生活していた。そして、気がついたら努力はしない、生活リズムは不規則、というダメ人間になっていた。そんな中で迎えた東京方面企業大学見学会。私は見学や懇談会を通して、素晴らしい方々の生き生きとした姿を肌で感じ、ダメ人間を卒業しよう、そんな思いで参加した。特に懇談会ではOB、OGともお話できるのだからと。

美味しいご飯を食べて迎えた懇談会。きっと寡黙でお堅い眼鏡の秀才ばかりが出てくるんだろう。そんな、勝手な偏見を持って…。しかし、実際は違った。全員がとても個性的だった。

1人目にお話をした女性の方。元ギター部でベースを弾いていたため全く同じだ！と嬉しくなった。しかし、勉強面では真逆だった。私は、ギター部に入り、今の段階ではゆるく活動しているが勉強をいっぱいしているわけでもない。というより、比較的、勉強していない。だから落ちこぼれている。しかし、彼女はギター部に所属し、人より多い放課後の時間は塾の自習室に行きカリカリと勉強していたそう。私は、勉強をすることができないのは部活がゆるくてメリハリがないからだとして責任転嫁していたが、むしろ部活のゆるさをプラスにして頑張れるのだと痛感した。故に、これからは放課後、メディアテークに通おうと決意した。

2人目にお話をしたのは元東大生の女性だった。この方との出会いは一生忘れられない。それほど印象に残る素晴らしい方だった。

彼女は自分の信念を強く持っている。

「授業を寝ても出ることの意味があるの？」

「周りの人間は経験論でしか語れないから自分で選んだことに信念を持つ。」

「自分の舞台は自分で用意する。」

など、信念に基づいた言葉には本当に重みがあって強く感動した。そして、信念を持っているからこそ大学を休学して起業しても、うまくいっているのだと思った。彼女のような決断力と強い信念は私には大きく欠如している。だから彼女のように決断力と信念を持って生活したい。…というありきたりなことを言えるほど彼女の決断力と信念は安っぽいものではない。本当に彼女はすごい、その一言に尽きる。

3人目にお話をしたのは東京医科歯科大学を出て歯科医師をなさっている男性だった。

彼もギター部だったが、やはり勉強面では私と真逆だった。彼は、一週間でx個単語を覚えると決めて覚えていたそうで、単語が大切だと教えてくださった。私は、スキマ時間があればスマートフォンとにらめっこしているの、彼のようにスキマ時間にコツコツと努力して勉学に励む、そう決意した。

今回は時間の関係上、3人とお話だった。3人という数で考えると少なく感じるだろう。けれどこの3人とお話できて、私の生活に対する意識はどれだけ良い影響を受けたかは計り知れない。人の心を動かすのは難しい。だから、正直、懇談会でここまで意識を変えさせられる思っていなかった。この懇談会は私にとって、東京方面企業大学見学会の一大イベントとなった。そして、ダメ人間卒業のきっかけにもなりそうだ。

東京大学のオープンキャンパスについて。

東京大学。国内で最高峰の大学。そんな、素晴らしい大学に足を踏み入れることなんか一生ないのだろうと思っていた。しかし、今回の研修を通してオープンキャンパスに参加することができ、貴重な経験ができた満足している。

私は、薬学部の講義を受けた。もともと薬学に興味があったわけではないがなんとなく受けてみようかと思ひ、受けた。東大の講義はとても難しいだろうからどの講義を受けても一緒かと思っていた。

講義の内容は、認知症と薬の関係についてだった。まず、認知症がなぜ起きるのか説明していただき、そして、どのような薬をどのタイミングで服用させればよいのか教えてくださった。講義が始まって数分、気付いたら私は講義の世界に入っていた。

「認知症は薬で防ぐことはできるが、発病してから治す薬はまだできていない。だからと言って全ての人に認知症の予防薬を服用させるわけにはいかないし…そこで、うまくやっていくのが私たちの使命。」

この言葉が強く印象に残った。

私の曾祖母は認知症で、祖父は介護に当たっているし、父は曾祖母が認知症だということを悲しんでいる。もし、認知症が発病してから治す方法があるなら、介護の大変さや父の悲しみを取り除いてあげられるのにと考えた。そして、認知症発病後の薬を完成させるのは私たちの代であるから講義の内容は他人事ではないと実感させられた。

薬学というのは薬を開発する人のため、薬剤師を目指す人のためにある学問だ。そして、薬というのは患者だけではなくその周りの人の痛みも取り除くことができるものだ。それ故に薬学は広い意味では社会の多くの人のためにある学問ではないかと思った。今まで薬学に興味を持ったことなかったが今回のオープンキャンパスを通じて、薬学にも興味を持つようになった。なんとなくで選んだ薬学部には私がこれほど興味を持ったのは、私が単純だからだろうか。それとも、それだけ講義が素晴らしかったからだろうか。きっとどちらも正解だが、後者の要素が強いだろう。これほど素晴らしい講義を受けられるなら是非東大に行こう…なんて言えるほど優秀ではない。しかし、同じくらい学ぶことの面白さを感じられる大学に行きたいと感じた。故に、努力するしかない。これほどのことを感じさせる東大にやはり行ってよかった。

このように東京方面企業大学見学会はわたしにとって学び多き2日間となった。

1日目のディレクトフォースでは、自分は社会の中で小さな存在で国際的に目を向けている方々の凄さを肌で感じた。また、海外で働いたり重要なポストに就いて働いたりした方々からお話を聞いて、考え方の視野が広がった。

企業訪問では感染症を具体的に学び、正しい対応が分かった。

懇談会は勉強面に限らず様々なことをお話しできて大変有意義な時間となった。

2日目の東大のオープンキャンパスは、勉強しようと奮起させるような素晴らしい経験をする事ができた。

東京でしか体験できないことはたくさんある。なぜなら東京は国の中心で、重要な機関や支社が集まっているからだ。そんなこと小さな子供でもわかる。しかし、今回、東京を修学旅行のような浮かれたものではなく、見学会として訪れることで、東京でしか体験できないことがたくさんあるということを痛感させられた。そして、東京に対する憧れのようなものが出てきたし、将来は東京に行って広い視野を持って働きたいとも思った。東京に行きたい。この思いだけで東京に行っても上手くいかないだろう。そもそも東京に行けばなんでもできると考えていること自体がおかしいと自分でも思う。だから、これからの高校生活でよく学び、様々なことを知った上で大学を選び、自分の興味を持つ学問を突き詰めて学んで、それでも東京に行きたいと思ったら東京に行きたいと思う。ここまで、これからの人生をどうするか考えさせられるようになるほど、東京方面企業大学見学会は素晴らしい時間だった。本当に行ってよかった。そうつくづく感じている。